



第65期 報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

日亜鋼業株式会社

株主の皆様へ

第65期の決算を終了いたしましたので、ここに当期の事業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費や公共投資が盛り上がり欠けるなど、景気回復の足取りが鈍い状態で推移しました。また、米国大統領選挙後の円安の進行により、輸出関連産業を中心とする企業業績が改善しているものの、東アジアや欧米における今後の政治経済情勢などが不透明なことから、景気の先行きは予断を許さない状況となっております。

線材加工製品業界におきましては、土木分野及び電力通信分野の需要低迷に加え、獣害防護柵に関する公共予算の一層の縮小等により、経営環境は依然として厳しい状況が継続しました。

このような状況の中、当社グループは収益改善に向けて積極的に取り組み、販売面におきましては、普通線材・特殊線材・鉄螺製品の販売数量が増加したことにより、当連結会計年度の売上高は26,333百万円と前期に比べ116百万円（0.4%）の増収となりました。

利益面におきましては、前年度までの設備投資により減価償却費が増加したものの、主原料の仕入価格低下やエネルギーコストの軽減、増産効果等の好転要因により、営業利益は575百万円と前期に比べ309百万円（116.3%）の増益、経常利益は1,025百万円と前期に比べ236百万円（30.0%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は687百万円と前期に比べ233百万円（51.5%）の増益となりました。

今後の見通しとしては、土木分野や公共事業の推移、原油価格や為替の動向等、先行きに対する不透明感が増しており、当社を取り巻く事業環境は必ずしも予断を許

さない状況にあると認識しています。

足元では、原料炭価格やスクラップ市況の上昇を受けた線材ロッド価格の高騰、亜鉛価格の急騰、原油価格の反転によるエネルギーコストの増加等、急激かつ大幅なコストプッシュに直面しています。これらの調達コスト増を製品価格に適切かつタイムリーに転嫁することが当社の収益を確保する上で不可欠であります。

当社グループは、収益重視の経営方針を基本とし、景気の動向等に一喜一憂しない「強靱な体質」を構築するために、製販技一体となって、市場競争力の強化、シェアの拡大、需要の創出、コスト低減の推進、国内外の子会社・関連会社の業容拡大等を図り、グループ全体の収益向上に努めていく所存であります。

また、管理体制面においては、業務効率化を推進するとともに、内部統制の充実及びコンプライアンスの一層の徹底を図ります。環境保全活動においても積極的かつ継続的に改善に取組み、企業の社会的な責任を果たしていく所存であります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

代表取締役社長

国峰 淳



営業品目

普通線材製品部門

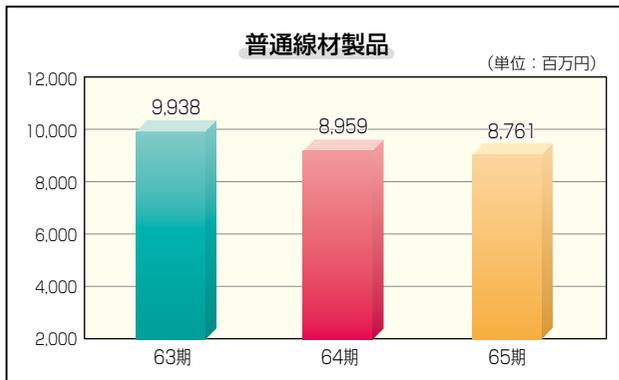
鉄線、亜鉛めっき鉄線、極厚亜鉛めっき鉄線、
亜鉛アルミ合金めっき鉄線、ニューサンカラーワイヤー、
日亜フェンス、有刺鉄線、ワサ針金、普通線材製品加工品、
硬鋼線材製品加工品、丁番

当部門は、普通線材を素材とした各種めっき鉄線、また、めっき鉄線を素線とした加工製品からなり、公共土木向けの落石防止網、じゃこご及び民間向けの各種フェンス等に使用されております。

土木分野及び第一次産業向けを中心に販売数量が増加したものの、公共予算の縮小に伴う獣害防護柵の受注減に加え、品種構成の悪化等により、売上高は8,761百万円と前期に比べ197百万円（△2.2%）の減収となりました。一方、営業利益は、減価償却費が増加したものの、主原料の仕入価格低下やエネルギーコストの軽減等により、515百万円と前期に比べ204百万円（65.6%）の増益となりました。



部門別売上高推移

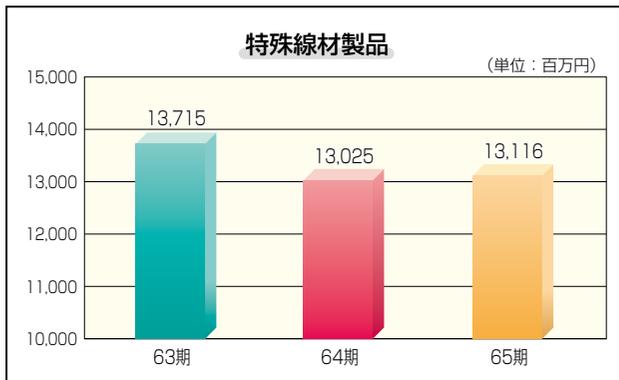


特殊線材製品部門

硬鋼線、ピアノ線、亜鉛めっき鋼線、亜鉛アルミ合金めっき鋼線、
鋼より線、鋼平線、合金めっき鉄平線、巻付グリップ、
ワイヤロープ、亜鉛めっきワイヤロープ

当部門は、特殊線材を素材とした硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープ等からなり、電力通信産業向け、自動車産業向け及び公共土木向け等、多岐に渡って使用されております。

電力通信分野の需要が低迷したものの、橋梁向け及びワイヤロープ等の販売数量が増加したことにより、売上高は13,116百万円と前期に比べ90百万円（0.7%）の増収となりました。営業損失は、主原料の仕入価格低下やエネルギーコストの軽減、増産効果等により、117百万円と前期に比べ41百万円（前期は159百万円の損失）の減少となりました。



鋌螺線材製品部門

トルシア形高力ボルト、六角高力ボルト、GNボルト

当部門は、鋌螺線材を素材としたトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト及びGNボルト等からなり、主として建築業向けに使用されております。販売数量増により、売上高は3,836百万円と前期に比べ234百万円（6.5%）の増収となりました。営業利益は、減価償却費が増加したものの、販売面の要素に加え、エネルギーコストの軽減や主原料の仕入価格低下等により、83百万円と前期に比べ60百万円（269.4%）の増益となりました。



鋌螺線材製品



連結売上高



連結営業利益



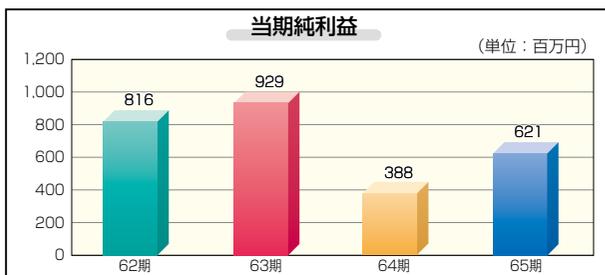
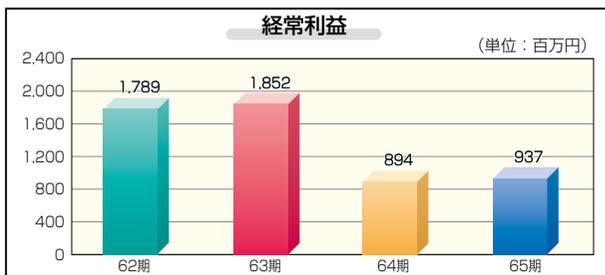
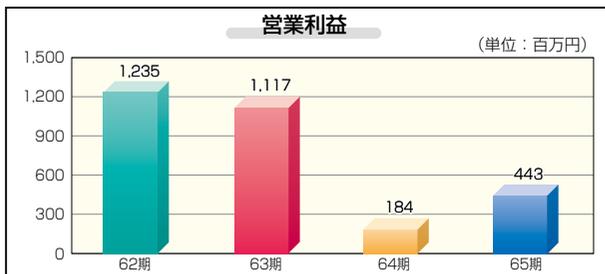
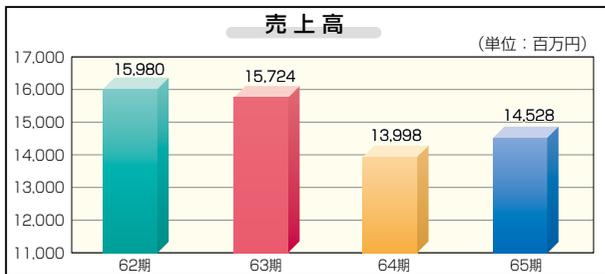
連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



当社の業績の推移



経理の状況

連結貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	[28,869,192]	流動負債	[9,462,005]
現金及び預金	10,144,861	支払手形及び買掛金	2,844,151
受取手形及び売掛金	7,601,956	電子記録債務	2,030,891
電子記録債権	1,844,496	短期借入金	1,397,908
有価証券	735,882	1年内返済予定の長期借入金	964,000
製品	5,070,340	未払金	812,961
仕掛品	860,450	未払法人税等	368,036
原材料及び貯蔵品	2,095,174	賞与引当金	214,004
繰延税金資産	230,805	設備関係支払手形	131,955
その他	289,762	営業外電子記録債務	70,048
貸倒引当金	△ 4,537	その他	628,046
固定資産	[35,594,626]	固定負債	[9,817,163]
有形固定資産	(17,384,590)	長期借入金	6,705,000
建物及び構築物	4,309,833	繰延税金負債	1,087,927
機械装置及び運搬具	3,646,111	役員退職慰労引当金	149,279
土地	9,110,955	退職給付に係る負債	1,825,061
建設仮勘定	197,742	その他	49,895
その他	119,948	負債合計	19,279,169
無形固定資産	(712,823)	純資産の部	
ソフトウェア	696,886	株主資本	[41,082,372]
ソフトウェア仮勘定	11,130	資本金	(10,720,068)
その他	4,806	資本剰余金	(10,888,051)
投資その他の資産	(17,497,212)	利益剰余金	(20,495,062)
投資有価証券	15,490,030	自己株式	(△ 1,020,810)
長期貸付金	494,266	その他の包括利益累計額	[1,276,364]
退職給付に係る資産	148,176	他有価証券評価差額金	1,085,382
繰延税金資産	546	為替換算調整勘定	321,067
破産更生債権等	169,785	退職給付に係る調整累計額	△ 130,085
その他	1,290,304	非支配株主持分	[2,825,912]
貸倒引当金	△ 95,896	純資産合計	45,184,650
資産合計	64,463,819	負債純資産合計	64,463,819

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

連結損益計算書

自 平成28年 4月1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		26,333,159
売上原価		21,612,896
売上総利益		4,720,262
販売費及び一般管理費		4,144,583
営業利益		575,679
営業外収益		
受取利息	132,897	
受取配当金	200,426	
有価証券売却益	76,721	
受取貸付貸	30,949	
保険解約返戻金	108,417	
太陽光売電収入	60,206	
雑収入	47,386	657,006
営業外費用		
支払利息	70,992	
持分法による投資損失	63,852	
太陽光売電原価	42,329	
災害による損失	10,028	
雑支出	20,343	207,546
経常利益		1,025,139
特別利益		
固定資産売却益	261	261
特別損失		
固定資産売却廃却損	17,942	
解体撤去費用	6,126	
投資有価証券評価損	4,870	28,939
税金等調整前当期純利益		996,460
法人税、住民税及び事業税	378,336	
法人税等調整額	△ 155,982	222,353
当期純利益		774,107
非支配株主に帰属する当期純利益		86,937
親会社株主に帰属する当期純利益		687,169

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

連結株主資本等変動計算書

自 平成28年 4月1日
至 平成29年 3月31日

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,720,068	10,888,051	20,098,300	△ 1,020,490	40,685,929
当期変動額					
剰余金の配当	—	—	△ 290,406	—	△ 290,406
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	687,169	—	687,169
自己株式の取得	—	—	—	△ 319	△ 319
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	396,762	△ 319	396,443
当期末残高	10,720,068	10,888,051	20,495,062	△ 1,020,810	41,082,372

	その他の包括利益累計額			
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計
当期首残高	561,986	323,462	△ 177,754	707,694
当期変動額				
剰余金の配当	—	—	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	523,395	△ 2,394	47,668	568,670
当期変動額合計	523,395	△ 2,394	47,668	568,670
当期末残高	1,085,382	321,067	△ 130,085	1,276,364

	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	2,758,746	44,152,370
当期変動額		
剰余金の配当	—	△ 290,406
親会社株主に帰属する当期純利益	—	687,169
自己株式の取得	—	△ 319
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	67,166	635,836
当期変動額合計	67,166	1,032,280
当期末残高	2,825,912	45,184,650

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 4社
ジェイワイテックス株式会社、滋賀ポルト株式会社、太陽メッキ株式会社、天津天治日亜鋼業有限公司
- (2) 非連結子会社の数 5社
日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司、烟台基威特鋼線製品有限公司
(連結の範囲から除いた理由)
非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社の数 1社
TSN Wires Co., Ltd.
- (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の数 5社
日亜企業株式会社、南海サービス株式会社、株式会社エムアールケー、烟台基威特金属製品有限公司、烟台基威特鋼線製品有限公司
(持分法を適用しない理由)
持分法を適用しない非連結子会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、天津天治日亜鋼業有限公司の決算日は、12月31日であります。
連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
- ① 有価証券の評価基準及び評価方法
その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）
時価のないもの
移動平均法による原価法
ただし、投資事業有限責任組合については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。
- ② デリバティブの評価基準及び評価方法
時価法
- ③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法
製品、原材料、仕掛品
移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下

げの方法）

貯蔵品

最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

- 純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。
- ③ 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、当期純利益は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。
- ④ 消費税等の処理方法
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

1. 平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用
法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。
なお、これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 34,237,857千円
2. 保証債務
下記の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。
TSN Wires Co., Ltd. 632,946千円 (194,155千THB)

4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
普通株式 51,755,478株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	145,203千円	3円	平成28年 3月31日	平成28年 6月30日
平成28年11月10日 取締役会	普通株式	145,203千円	3円	平成28年 9月30日	平成28年 12月5日
計		290,406千円			

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 開催予定の定時株主総会	普通株式	利益剰余金	145,199千円	3円	平成29年 3月31日	平成29年 6月30日

5. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については有価証券運用規程の範囲で運用し、リスクを避ける為に投機的な運用は回避しており、分散投資により安全性を保持しております。また、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

受取手形及び売掛金、電子記録債権に係る取引先の信用リスクは、基本的には契約時に総合商社を起用しリスク低減を図っております。また、有価証券及び投資有価証券については適時に時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金(主として短期)及び設備投資資金(長期)であります。なお、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して、金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりません。

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額(*)	時 価(*)	差 額
(1)現金及び預金	10,144,861	10,144,861	—
(2)受取手形及び売掛金	7,601,956	7,601,956	—
(3)電子記録債権	1,844,496	1,844,496	—
(4)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	12,922,196	12,922,196	—
(5)長期貸付金	494,266	562,999	68,733
(6)支払手形及び買掛金	(2,844,151)	(2,844,151)	(—)
(7)電子記録債務	(2,030,891)	(2,030,891)	(—)
(8)短期借入金	(1,397,908)	(1,397,908)	(—)
(9)未払金	(812,961)	(812,961)	(—)
(10)設備関係支払手形	(131,955)	(131,955)	(—)
(11)営業外電子記録債務	(70,048)	(70,048)	(—)
(12)長期借入金	(7,669,000)	(7,708,905)	(39,905)
(13)デリバティブ取引	(—)	(—)	(—)

(*)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)電子記録債権
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4)有価証券及び投資有価証券
これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券、投資信託等は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

(5)長期貸付金
これらの時価については、その将来キャッシュ・フローをスワップレート等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価格により算定してあります。

(6)支払手形及び買掛金、(7)電子記録債務、(8)短期借入金、(9)未払金、(10)設備関係支払手形、並びに(11)営業外電子記録債務
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(12)長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。変動金利による長期借入金の一部については、金利スワップの特例処理の対象とされ、当該金利スワップと一体とし

て処理された元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。

(13) デリバティブ取引
金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額2,064,430千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。

(注3) 非連結子会社株式及び関連会社株式(連結貸借対照表計上額1,239,285千円)は、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。

6. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 875円16銭
2. 1株当たり当期純利益 14円20銭

7. その他の注記

1. 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	〔 19,611,979〕	流 動 負 債	〔 4,462,416〕
現金及び預金	8,696,923	支払手形	18,952
受取手形	2,130,307	電子記録債務	2,126,020
電子記録債権	957,452	買掛金	845,309
売掛金	2,426,693	1年内返済予定の長期借入金	200,000
有価証券	735,882	未払金	424,307
製品	3,059,980	未払費用	170,450
仕掛品	200,022	未払法人税等	300,632
原材料及び貯蔵品	884,499	未払消費税等	189,769
前払費用	22,722	前受金	9,124
繰延税金資産	114,189	預り金	12,697
短期貸付金	91,280	賞与引当金	112,890
未収入金	9,710	営業外電子記録債務	52,261
立替金	285,731		
その他	492	固 定 負 債	〔 3,761,546〕
貸倒引当金	△ 3,907	長期借入金	2,800,000
		繰延税金負債	138,453
固 定 資 産	〔 27,394,262〕	退職給付引当金	687,747
有形固定資産	(8,396,176)	役員退職慰労引当金	86,701
建物	3,111,775	その他	48,645
構築物	244,374		
機械装置	2,003,951	負 債 合 計	8,223,962
車両運搬具	1,641		
工具器具備品	86,046	純 資 産 の 部	
土地	2,948,386	株 主 資 本	〔 37,734,095〕
		資本金	(10,720,068)
無形固定資産	(632,187)	資本剰余金	(10,888,051)
ソフトウェア	630,501	資本準備金	10,888,032
その他	1,685	その他資本剰余金	18
		利益剰余金	(17,146,785)
投資その他の資産	(18,365,898)	利益準備金	655,131
投資有価証券	12,771,565	その他利益剰余金	(16,491,654)
関係会社株式	3,652,620	別途積立金	12,159,226
長期貸付金	669,000	繰越利益剰余金	4,332,427
長期前払費用	15,493	自己株式	(△ 1,020,810)
退職積立保険料	1,036,239		
その他	248,678	評価・換算差額等	〔 1,048,183〕
貸倒引当金	△ 27,700	その他有価証券評価差額金	1,048,183
		純 資 産 合 計	38,782,279
資 産 合 計	47,006,242	負 債 純 資 産 合 計	47,006,242

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

損 益 計 算 書

(自 平成28年 4月1日
至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	額
売 上 高		14,528,955
売 上 原 価		11,792,028
売 上 総 利 益		2,736,927
販売費及び一般管理費		2,293,905
営 業 利 益		443,022
営 業 外 取 益		
受取利息及び配当金	310,622	
有価証券売却益	76,721	
保険解約返戻金	108,417	
雑収入	25,673	521,435
営 業 外 費 用		
支払利息	11,838	
災害による損失	10,028	
雑支出	4,761	26,628
経 常 利 益		937,829
特 別 利 益		
固定資産売却益	249	249
特 別 損 失		
固定資産売却損	11,598	
解体撤去費用	6,126	
投資有価証券評価損	4,870	22,595
税引前当期純利益		915,483
法人税、住民税及び事業税	325,000	
法人税等調整額	△ 31,416	293,583
当 期 純 利 益		621,900

(注) 記載金額は、千円未満を切捨て表示しております。

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

(自 平成28年 4月1日
至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	其他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-
自己株式の取得	-	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	10,720,068	10,888,032	18	10,888,051

	株主資本					
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
	利益準備金	其他利益剰余金				利益剰余金合計
	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	655,131	12,159,226	4,000,933	16,815,291	△ 1,020,490	37,402,921
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	△ 290,406	△ 290,406	-	△ 290,406
当期純利益	-	-	621,900	621,900	-	621,900
自己株式の取得	-	-	-	-	△ 319	△ 319
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	331,493	331,493	△ 319	331,174
当期末残高	655,131	12,159,226	4,332,427	17,146,785	△ 1,020,810	37,734,095

	評価・換算差額等		純資産合計
	其他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	531,064	531,064	37,933,985
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	△ 290,406
当期純利益	-	-	621,900
自己株式の取得	-	-	△ 319
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	517,119	517,119	517,119
当期変動額合計	517,119	517,119	848,294
当期末残高	1,048,183	1,048,183	38,782,279

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
- ② その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの
移動平均法による原価法
ただし、投資事業有限責任組合については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 製品、原材料、仕掛品
移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
- ② 貯蔵品
最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
- (2) 無形固定資産
定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
- (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金
従業員の賞与の支出に充てるため、支給見込額基準により計

上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更に関する注記

1. 平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

3. 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

14,510,620千円

2. 保証債務

下記の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

ジェイワイテックス株式会社	1,000,000千円
天津天冶日亜鋼業有限公司	580,523千円(35,636千円)
TSN Wires Co., Ltd.	632,946千円(194,155千円THB)

3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	527,552千円
長期金銭債権	669,000千円
短期金銭債務	698,262千円

4. 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引高

営業取引による取引高	
売上高	405,544千円
仕入高	2,025,844千円
その他の営業取引高	83,654千円
営業取引以外の取引による取引高	23,432千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数
普通株式 3,355,553株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)	
賞与引当金	34,784千円
未払事業税	30,340千円
製品（横持費用）	3,692千円
退職給付引当金	210,372千円
役員退職慰労引当金	26,513千円
貸倒引当金繰入限度超過額	9,658千円
投資有価証券	72,122千円
関係会社株式	122,440千円
棚卸資産評価損	24,988千円
減損損失	81,724千円
その他	23,282千円
繰延税金資産小計	639,918千円
評価性引当額	△ 163,361千円
繰延税金資産合計	476,557千円
(繰延税金負債)	
その他有価証券評価差額金	△ 454,172千円
前払年金費用	△ 46,648千円
繰延税金負債合計	△ 500,821千円
繰延税金資産（負債）の純額	△ 24,263千円

繰延税金資産（負債）の純額は貸借対照表の以下の項目に含まれております。

流動資産 - 繰延税金資産	114,189千円
固定負債 - 繰延税金負債	△ 138,453千円
繰延税金資産（負債）の純額	△ 24,263千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	住所	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権の所有(被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	ジェイワイテック株式会社	大阪府貝塚市	450,000	金属製品製造業	所有直接55%	兼任1人	資金の援助 債務保証	資金の返済 受取利息 (注)1 債務保証 (注)3	211,147 1,645 1,000,000	長期貸付金	500,000
子会社	滋賀ボルト株式会社	滋賀県甲賀市	200,000	金属製品製造業	所有直接100%	—	当社製品の生産	新螺製品の購入 (注)2	1,775,572	電子記録 債務 買掛金	470,497 152,919
子会社	天津天治日垂鋼業有限公司	中国天津市	75,000千円	金属製品製造業	所有直接51%	兼任2人	債務保証	債務保証 (注)3	580,523 (35,636千円)	—	—
関連会社	TSN Wires Co., Ltd.	タイ国バンコク	700,000千THB	金属製品製造業	所有直接40%	兼任2人	債務保証	債務保証 (注)3	632,946 (194,155千THB)	—	—

取引条件及び取引条件の決定方法等

- (注) 1. 市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
2. 滋賀ボルト株式会社から提示された総原価を検討の上、決定しております。
3. 金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

8. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 801円27銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 12円85銭 |

9. その他の注記

1. 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。

株 式

(平成29年 3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 117,243,000株
- ② 発行済株式総数 51,755,478株
- ③ 株 主 数 3,828名
- ④ 大株主 (上位10名)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
新日鐵住金株式会社	11,674	24.12
日 亜 興 産 株 式 会 社	3,575	7.39
日 亜 鋼 業 取 引 先 持 株 会	2,181	4.51
株 式 会 社 池 田 泉 州 銀 行	2,040	4.22
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 62006G	1,919	3.97
株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行	1,845	3.81
日 本 ト ラ ス ティ サ ー ビ ス 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	1,290	2.67
日 亜 鋼 業 従 業 員 持 株 会	1,089	2.25
株 式 会 社 み な と 銀 行	1,008	2.08
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	971	2.01

- (注) 1. 当社は自己株式 (3,355,553株) を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式 (3,355,553株) を控除して計算しております。

財務の概況

(平成29年 3月31日現在)

資金調達の状況

該当事項はありません。

設備投資等の状況

当連結会計年度中において実施いたしました設備投資等の総額は805百万円であり、その主なものは、次のとおりであります。

- ① 当連結会計年度に完成した主要設備

当 社	硬鋼線伸線機移設
ジェイワйтеックス株式会社	事業所照明LED化

- ② 当連結会計年度において継続中の主要設備の新設、拡充

ジェイワйтеックス株式会社	伸線機増強工事
滋賀ボルト株式会社	熱間圧造機更新

主要な借入先

会 社 名	借 入 先	借入金残高 (百万円)
当 社	株式会社三菱東京UFJ銀行	2,000
	株式会社池田泉州銀行	400
	株式会社みなと銀行	350
ジェイワйтеックス株式会社	株式会社三菱東京UFJ銀行	1,200
	株式会社みなと銀行	717
	株式会社池田泉州銀行	450
	株式会社紀陽銀行	390
	株式会社四国銀行	362
太陽メッキ株式会社	株式会社みなと銀行	266
	株式会社池田泉州銀行	200
天津天冶日亜鋼業有限公司	三菱東京UFJ銀行(中国)有限公司	31,736 (千元)

会社の概況

(平成29年 3月31日現在)

商号 日亜鋼業株式会社
 英訳名 NICHIA STEEL WORKS,LTD.
 創業 明治41年 7月 1日
 設立 昭和27年 6月16日
 資本金 10,720,068千円

従業員の状況

① 企業集団の従業員の状況

区分	従業員数	前期末比増減
男性	665名	—
女性	93名	3名増
合計	758名	3名増

(注) 従業員数は、当連結会社から当連結会社外への出向者を除き、当連結会社外から当連結会社への出向者を含む就業人員であります。

② 当社の従業員の状況

区分	従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	253名	6名増	40歳7ヶ月	17年5ヶ月
女性	28名	1名増	34歳4ヶ月	9年9ヶ月
合計	281名	7名増	40歳	16年9ヶ月

(注) 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

当社事業所及び連結子会社

本社 〒660-0091 尼崎市中浜町 19 番地
 ☎(06)6416-1021 (代表)

本社事務所 〒660-0083 尼崎市道意町 6 丁目 74 番地
 ☎(06)6416-1021 (代表)

本社中浜工場 〒660-0091 尼崎市中浜町 19 番地
 ☎(06)6416-8914

本社道意工場 〒660-0083 尼崎市道意町 6 丁目 57 番地
 ☎(06)6416-9483

茨城工場 〒319-1556 北茨城市中郷町日棚 1471 番地 27
 ☎(0293)42-7480

東京支店 〒104-0031 東京都中央区京橋 2 丁目 5 番 18 号
 京橋創生館 11 階
 ☎(03)5524-5501

北海道営業所 〒060-0002 札幌市中央区北二条西 4 丁目 1 番地
 北海道ビル 8 階
 ☎(011)251-3301

東北営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町 2 丁目 8 番 15 号
 太陽生命仙台ビル 6 階
 ☎(022)266-5611

名古屋営業所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2 丁目 13 番 18 号
 NS ビル 2 階
 ☎(052)564-7278

新潟営業所 〒950-0087 新潟市中央区東大通 1 丁目 3 番 10 号
 三井生命新潟ビル 8 階
 ☎(025)244-4050

広島営業所 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15 番 10 号
 セントラルビル 8 階
 ☎(082)227-3010

九州営業所 〒810-0042 福岡市中央区赤坂 1 丁目 12 番 15 号
 読売福岡ビル 7 階
 ☎(092)781-7508

ジェー・ワイテックス株式会社 (本社) 〒597-0054 大阪府貝塚市堤 300 番地
 ☎(072)436-6802

滋賀ボルト株式会社 (本社) 〒528-0212 滋賀県甲賀市土山町南土山乙 423
 ☎(0748)66-1131

太陽メッキ株式会社 (工場) 〒537-0011 大阪市東成区東今里 2 丁目 9 番 8 号
 ☎(06)6981-0281

天津天治日亜鋼業有限公司 中華人民共和国天津市北辰区引河橋北学海道 15 号
 ☎010-86-022-8690-9806

役員

(平成29年3月31日現在)

代表取締役社長		国 峰 淳
常務取締役	(製造本部及び技術本部管掌 製造本部長兼設備部長)	寺 前 昭
取締役	(TSN Wires Co.,Ltd.取締役副社長)	寺 川 斉 貴
取締役	(技 術 本 部 長)	高 間 敏 夫
取締役	(営業本部長兼特殊線材製品販売部長)	道 盛 武 彦
取締役	(管 理 本 部 長)	沖 垣 佳 宏
取締役		長 岡 宏 明
常勤監査役		下 徳 弘 幸
監査役	(公認会計士並びに税理士)	中 谷 紀 之
監査役	(新日鐵住金(株)執行役員)	松 岡 弘 明

- (注) 1. 取締役 長岡宏明氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役 中谷紀之氏及び松岡弘明氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 監査役 中谷紀之氏は、公認会計士並びに税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 当社は、株式会社東京証券取引所に対し、社外取締役である長岡宏明氏及び社外監査役である中谷紀之氏を、独立役員として届け出ております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主日 確定日	3月31日
中間配当金受領株主日 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料) 〔受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)〕 ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nichiasteel.co.jp/ (ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

MEMO

MEMO
